



キュウリ

おいしさ、作りやすさ、
収量で選ぶおすすめ品種

キュウリ (育苗)
耕種基準

畝幅 (cm)	270
条数 (条)	2
株間 (cm)	60

※表示の耕種基準は
目安としてご利用
ください。

直売所にはこの品種！

おいしさで選ぶなら…

「シャキット」は、皮がやわらかく、果肉はしまつて、サクサクした食感が特長で、生食用や浅漬け用に最適です。「Vアーチ」と同様の複合耐病性があり、特にうどんこ病、べと病には、強さを発揮します。葉が大きい品種なので、順次摘葉を進め、草勢を落ち着かせて、果実肥大を促すことが、上作のポイントです。耐暑性を生かし、盛夏期に食味にこだわった品種として陳列してはいかがでしょうか。



↑「シャキット」は食味のよい^{すうよう}四葉系キュウリ。生食や浅漬けに最適！

作りやすさで選ぶなら…

「VR夏すずみ」は、耐病性品種の先駆けで、今や家庭菜園でも定番になっている「夏すずみ」の改良種です。うどんこ病、べと病の耐病性に、ウイルス病 (ZYMV) の耐病性[※]が加わって、「夏すずみ」に比べるもちがよ^く、長期間、高秀品性を維持することができます。

収量で選ぶなら…

「Vアーチ」は、うどんこ病、べと病、ウイルス病 (主にZYMV) に耐病性があり、しかも耐暑・耐干性にすぐれています。また高温になっても側枝が止まることなく、雌花が多く着生することから、長期にわたって収穫可能で、収量が上がります。

小葉、立性の込みにくい草姿で、下段の孫枝3〜4本を一葉摘芯すれば、それ以降はあまり枝整理をしなくても過繁茂になることはなく、省力栽培が可能な品種です。

直売所出荷で差別化を図る
栽培ポイント

スムーズに活着させるために

定植は、遅霜の心配がなくなるころからさらに1週間経って始めると、初期の生育が順調に進みます。それよりも早く定植する場合は、特に夜間の保温用として、ホットキャップを使用する方が安全でしょう。

元肥は、10㎡当たりN・P・K 11300〜350g・350〜400g・300〜350g、堆肥^{たいひ}を約20kg投入し、15℃以上の地温を確保するために、1週間前には、マルチを張って地温を高めておきます。

なお中間地の6月下旬〜7月上旬のように、気温が急激に上昇する時期に定植となる作型では、育苗期間を春先よりも短くし、本葉2〜5枚の若苗を定植するようにします。



↑遅霜の恐れのある時期に定植する場合は、保温キャップを使うと安全。

着果節位までの芽かきの徹底

長期間収穫できる馬力のある草勢にするために、下位7節までの側枝と雌花は除去します。特に雌花は必ず除去し、茎葉や根圏への養分分配を優先させます。



↑下位7節までの雌花と側枝をかきとる。

早めの主枝摘芯で草勢維持を

主枝は、本葉25枚までには摘芯し、側枝の発生を促しますが、摘芯のタイミングは、生長点が手で摘める大きさが理想です。伸ばした主枝を、ハサミなどで切り取る方法では、キュウリの収穫が進む中、草勢を急激に落とす原因になります。

これは側枝についても同様で、一葉や二葉で摘芯する側枝は早めに摘み、もし伸びすぎた場合は一葉や二葉の摘芯にこだわらず、生長点を摘むだけに留めます。

※条件により発病することがあります



病気に強く家庭菜園に
最適な短形四葉！

フリーダー
おすすめ

シャキット®

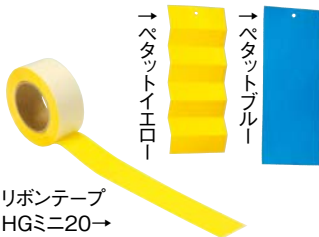
シャキット

月	3	4	5	6	7	8	9	10	11
冷涼地									
中間地									
暖地									

- 歯切れや肉質がよく、みずみずしい夏秋栽培用短形四葉。
- 従来の四葉系品種より、秀品率と収量性にすぐれる。
- べと病・うどんこ病・ウイルス病（特にZYMV）に強く、減農薬栽培に有利。

資材の活用

粘着トラップシート「リボンテープHG」「ペタット」を使って減農薬栽培



リボンテープ HGミニ20→

耐病性品種の圃場には、粘着トラップシートによる害虫の捕殺で、さらなる減農薬化を図ってみたいはいかがでしょうか。青色のシートはアザミウマ類、黄色のシートはコナジラミ類、アブラムシ類、ハモグリバエ類の防除が期待できます。特にキュウリでは、生育初期の防除が有効で、捕殺シートを生長点の付近に吊り下げるようにしてください。

栽培Q&A



↑株の茂りすぎを防ぐためには適葉が有効。（写真は「夏すずみ」の畑）

A 受光体勢のよい草姿で収穫最盛期を迎えるには、摘葉が重要です。収穫開始期直前に、主枝の下葉2〜3枚の摘葉から、管理をスタートし、それ以降、週に1回のペースで管理を進めますが、除去する葉枚数を葉の込み具合にあわせて、2〜4枚の範囲で調節します。なお目安として、側枝の果実の収穫が終了するところに、主枝の葉がすべて除去されているのが理想の状態です。

Q キュウリが茂りすぎてしまします。対処法を教えてください

→主枝は本葉25枚程度で摘心。生長点を手で摘めるくらい小さいうちに摘芯する。



→小葉、立性の「Vアーチ」は、枝整理の手間がかからず省力栽培ができる。

ブリーダーズ・アイ

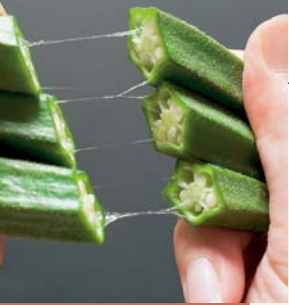
良苗の見分け方

まず苗の大きさや本葉の枚数に、こだわらないようにします。そして「胚軸（双葉の下）が、長くなく、太くてかたい」「本葉が大きくて厚みがある」ガッチリした苗がよい苗です。また「本葉と地際部に傷、斑点、変色がない」健苗であることも重要なポイントです。

定植苗は、本葉3枚前後が理想です。購入時の苗が、小さかったり、軟弱な場合には、12cmのポットに植え替え、養生、馴化してから、定植するとよいでしょう。

→胚軸の太さ、葉の厚みなど、本葉枚数や苗の大きさにこだわらず、がっしりした苗を選ぶ。





オクラ

おいしさ、作りやすさ、
収量で選ぶおすすめ品種

→オクラの粘り成分が消化を助ける。
健康野菜としても注目を集めている。



オクラは、消化を助ける働きがある粘り成分ムチンやペクチンを豊富に含んでおり、健康野菜として人気があります。以前は需要のほとんどが盛夏期に集中していましたが、昨今は夏場以外の消費も高まっています。また、直売所では、普段あまり見かけない珍しい品種も人気です。複数の品種をうまく使い分けて、広がる消費需要に対応した出荷を目指してみたいかがでしょうか。

直売所にはこの品種！

おいしさで選ぶなら…

丸オクラの「エメラルド」は、莢に角がないため、非常にやわらかな食感が楽しめます。通常の五角オクラでは15cm程度の大莢になると角が筋張ってかたくなってしまいますが、「エメラルド」は大莢になってもやわらかさが持続するため、収穫サイズに幅をもたせることができます。

作りやすさで選ぶなら…

五角オクラの「アーリーファイブ」は、鮮やかな濃緑の莢が特長の早生品種です。低い節位から断続的に着莢し、収穫初期から安定して多収を望めるため、早期出荷にも適します。

収量で選ぶなら…

「グリーンソード」は、光沢のある極濃緑色の莢が特徴の五角オクラです。イボ果などの奇形果の発生も少なく、



オクラ担当
かわにし たかあき
河西 孝昭

オクラ耕種基準

畝幅(cm)	150
条数(条)	2
株間(cm)	30

※表示の耕種基準は目安としてご利用ください。



↑作りやすく安定してたくさんとれる「アーリーファイブ」。

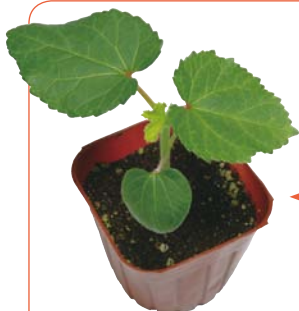


↑角のない丸莢でやわらかな食感の楽しめる「エメラルド」。(写真は「エメラルド」の鰹がけ)

見栄えがよい美しい莢は店頭でも一目を引きまします。また、栽培後半まで草勢が旺盛であることから、最も消費が伸びる盛夏から初秋まで断続的に収穫できます。

良苗作りの方法

オクラは直根性作物のため、直播栽培が基本となりますが、早期出荷を目指す栽培などで最低地温18℃が確保できない場合は、ポット苗を仕立てたうえで畝に定植するとよいでしょう。9cmポットに播種し、発芽後は、徒長を防ぐため夜間にポット内の水分を残さないように灌水管理を行います。定植適期は、本葉2・5枚程度ですが、定植が遅れると、ポット内で根が巻いてしまつて定植後に根圏がうまく発達しなくなるため、十分注意しましょう。



↑定植適期は本葉2.5枚程度。

↓発芽。



↑タネまき。

直売所出荷で差別化を図るための栽培ポイント

今回ご紹介した品種は、いずれも草勢が旺盛なため、要所を押さえて簡単な管理作業を行うだけで、多収が望めます。

追肥重視の施肥設計を

元肥は、栽培初期から過繁茂になるのを防ぐよう少なめに施し、追肥重視の施肥を心掛けるようにします。堆肥を十分投入したうえで、10㎡当たりチッソ150g、リン酸120g、カリ150gを目安に施します。圃場選定の際は、ネコブセンチュウの発生を防ぐため、オクラを連作していない場所を選びます。



↑後半まで草勢を落とさず、高品質のオクラを収穫する。

催芽処理

オクラは種皮がかたく、吸水に時間がかかるため、播種前の一昼夜、ぬるま湯に浸しておきます。こうすることで発芽がそろい、後の栽培管理が容易になります。また、地温が低いと発芽不良を引き起こしやすくなるため、播種の際は必ず最低地温18℃を確保しましょう。

適度な灌水・肥培管理で草勢を保つ

乾燥に強いオクラはなかなか萎れないため、灌水不足になりがちですが、水不足は生育遅れや奇形果発生を引き起こします。開花後は定期的に灌水を行うことで草勢が長もちし、多収につながります。追肥は1〜2果収穫後から月2回程度、10㎡当たりチッソ成分で30g程度ずつ、肥切れを起こす前に施します。

摘葉

オクラの栽培は栽植密度が高くなるため、摘葉を怠ると光線の透過が悪くなり、病虫害の発生や果実品質の低下を助長します。収穫節の直下の葉を2枚残し、これ以下の葉を摘葉するようにしましょう(図)。

出荷のヒント

バラエティ豊かな品種を出荷して消費者の目を引く

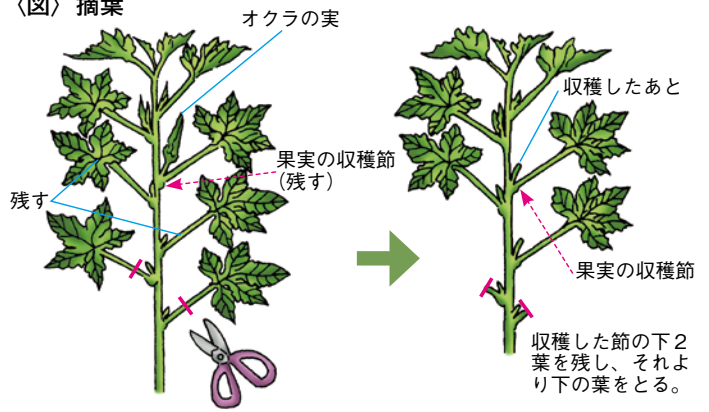
直売所へのお荷には、一般的な緑莢の五角オクラと合わせて、丸オクラや赤オクラなど、一般市場での流通が少ない品種をうまく取り入れてバラエティを広げてみてはいかがでしょうか。大莢での収穫が可能な丸オクラ「エメラルド」を、「大オクラ」として出荷するのもよいでしょう。また、鮮やかな赤莢が特徴の五角赤オクラ「ベニー」と、緑莢オクラをセットにし、サラダの彩り用として販売するなど消費者にインパクトを与えます。

料理の彩りに、緑莢と赤莢のオクラを一つの袋に入れて販売するのもよい。(写真:左「ベニー」)



←「エメラルド」の大莢販売もユニークで目を引く。

〈図〉摘葉



収穫の目安

「グリーンソード」「アーリーファイブ」は、莢の長さ8〜10cmが収穫適期です。収穫が遅れると角がかたくなるほか、株への負担も大きくなるため、毎日収穫することをおすすめします。丸オクラの「エメラルド」は、莢長15cm程度までかたくなりたくないため、8〜15cmの間で好みのサイズに合わせて収穫できます。



↑莢長8〜10cmになった時が収穫適期。丸オクラの「エメラルド」はもう少し大きく15cmほどまで待ってもよい。



おいしさ、作りやすさ、
おすすめ品種

スイカ

収量で選ぶ

スイカ(育苗)
耕種基準

畝幅 (cm)	270
条数 (条)	1
株間 (cm)	75~90

※表示の耕種基準は
目安としてご利用
ください。

直売所出荷では鮮度が魅力ですので、「甘さ」と「シャリツとした歯触り」を兼ね備えたみずみずしいスイカで、夏の売り場を充実させてください。

直売所にはこの品種！

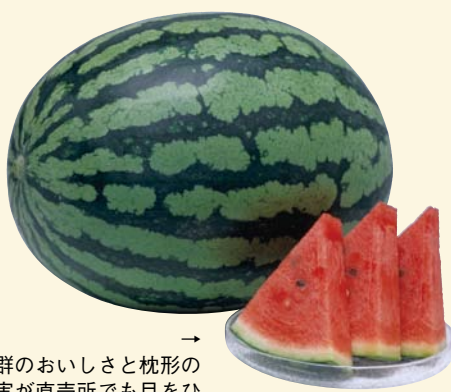
おいしさで選ぶなら…

「**紅まくら**」がおすすりめです。糖度以上に強く感じられる甘みと、歯触りのよいシャリ感、独特の芳醇な風味でスイカの醍醐味を満喫できます。珍しい枕形の果実も売り場で目立ち、お客さまの目を楽しませてくれます。着果や肥大のよさに加え、空洞果や裂果も少なく栽培性も安定した品種です。

作りやすさと収量で選ぶなら…

「**秀山**」がおすすりめです。梅雨の時期は一般に着果が不安定になりがちですが、「秀山」は少々天候が悪くても着果が比較的安定します。果実肥大にすぐれ、空洞果や変形も少なく秀品率が高

い点や、果肉がかためて店もちがよく、売り場でのロスが少ない点も特長で、作りやすさと食味のバランスがとれた品種です。



→ 枕形の果実が直売所でも目をひく「紅まくら」。

栽培Q&A

Q 高畝の効果は？

A スイカはあまり土質を選びませんが多湿は苦手ですので、排水のよい場所を選んで高畝にします。梅雨時は、株元の病害予防にも効果的です。

直売所出荷で差別化を図る
栽培ポイント

連作圃場を避けて高畝栽培

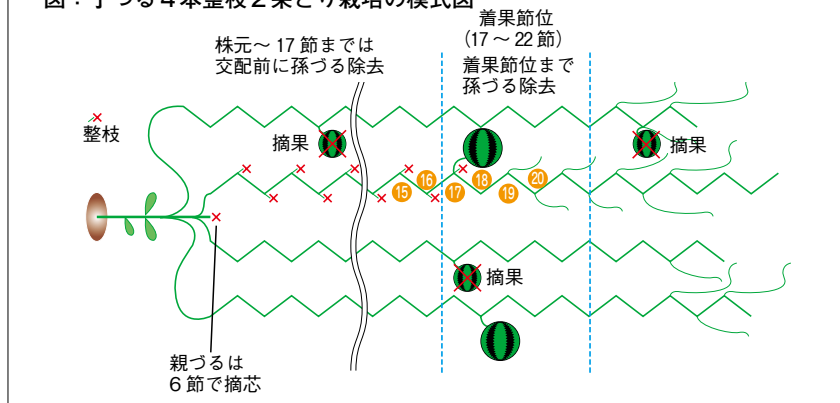
連作を嫌うため、接ぎ木でなければ、5年以上スイカを作っていない畑を準備します。元肥は10㎡当たり堆肥20kg、有機質肥料および苦土石灰各1kgが目安です。生育初期は地温が重要(畝面の15cm下で15℃以上)ですので、早めに畝を立ててマルチを張ります。畝は20cmほどの高畝にします。

定植は晴天で風が弱い日の午前中に行い、十分灌水して根鉢を崩さないように植えます。市販苗なら節間や葉柄が長くない健苗を選び、接ぎ面に土をかけないように植え付けて病気を防ぎます。

つるを仕立てて高品質な玉を収穫

放任でもかまいませんが、実がなるに任せると大きさや甘みが不足しますので、大玉は子づる4本で2果、小玉は子づる3〜4本で2〜3果を目標にします。本葉6枚を残して親づるを摘み、子づるが50cmほどのころ、必要数に整枝してつるを伸ばす方へ適宜誘引します。着果は3番花(18節前後)以降とし、着果節までの孫づるは早めに除きます(図)。

図：子づる4本整枝2果どり栽培の模式図



品質のよい玉の着果を促す

好天ならミツバチの訪花で着果しますが、曇天時は午前中に人工交配します。寒い朝は、気温が上がって花粉が出るのを待ってから受粉します。

果実が鶏卵大のころ、長めで形のよい果実を必要数残し、あとは摘果します。果実の生育が早いいため土壌水分を多めに管理し、つる先が細くなるようなら追肥で草勢を維持します。



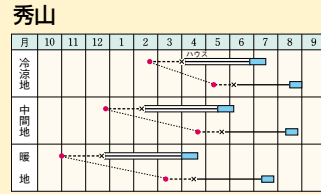
フリーダー
おすすめ



平均果重 7~8kg 中生

着果しやすく肥大のよい大玉種！

秀山
（タキイ交配）



- 果重7~8kg程度の大玉できれいな果形。
- 肉質はややかためで日もちがよく、高糖度で食味にすぐれる。
- 着果性が安定し、果実肥大にすぐれ栽培容易。

資材の活用

トンネルを使って効率のよい栽培を

中間地では5月中旬まで夜温が低いのでトンネル栽培をおすすめします。初期の保温だけでなく、つるを引いてトンネル内で交配を行えば、着果や果実肥大を促進します。雨よけにより、病気予防にも効果を発揮します。



↑サンサンネットを使用したスイカのトンネル栽培。

栽培Q&A

Q 施肥の仕方は？

A 初期の草勢が旺盛だと実がなりにくくなるため、元肥のチッソは過剰に施さず、着果後に草勢に応じて追肥を行い、果実肥大と草勢維持を図ります。元肥は緩効性の有機質肥料を、追肥は速効性の化成肥料を主体とします。



→追肥は速効性の化成肥料を中心に。元肥はチッソを控えめに。

私の菜園

幅広の縞がユニーク！ 味よく栽培容易な 「カメハメハ」

家庭菜園向きで選ぶなら「カメハメハ」がおすすめです。3.5kgほどの食べきりサイズで扱いやすく、糖度も12度前後で高く安定します。収穫前に裂果する心配も少なく、甘さを十分にのせた完熟果を収穫することができます。また、果肉がかためで日もちがよいので、少々収穫が遅れてもおいしさが損なわれません。着果やそろいもよく、作りやすさも兼ね備え、幅広の縞をもつ枕形の珍しい外観も見ために楽しい品種です。



↑収穫前の裂果が少なく完熟果を収穫できる「カメハメハ」。



↑「紅まくら」玉直しの様子。接地面が直射日光で日焼けしないよう注意。



↑敷きわらによって、梅雨時の泥の跳ね上がりを防ぐ。

熟度のムラを抑え適期収穫を

登熟期（交配後約25日〜）に入ったら玉直しを行い、熟度のムラを抑えます。「紅まくら」は横に寝かせますので、玉直しの際に接地面が急に直射日光に当たって日焼けしないようにします。

着果節の巻きひげが全体に枯れたころが収穫の適期です。大玉は交配後45〜50日、小玉は35〜40日を目安とし、試し切りで果肉の色、食味、糖度を確かめてから収穫します。

病害虫防除

病害虫は早期発見と初期防除に努め、農薬の使用を最低限に抑えます。

梅雨時は炭疽病、疫病、つる枯れ病などの発生に備え、敷きわらなどで泥の跳ね上がりを防ぎます。整枝や除草も早めに行って風通しを図り、病原菌の繁殖を抑えます。梅雨明け後はアブラムシやダニなど虫害に注意します。葉が傷み光合成が不足すると、果実肥大や食味が低下します。



おいしさ、作りやすさで
選ぶおすすめ品種

ニガウリ

ニガウリ(育苗)
耕種基準

畝幅(cm)	270
条数(条)	2
株間(cm)	80

※表示の耕種基準は
目安としてご利用
ください。

近年の健康志向から野菜の機能性成分が注目を集めています。ニガウリに含まれる独特の苦み成分(モルルデシン)は、食欲を増進させるほか、肝機能を高め血糖降下をもたらす効果が知られています。また、高温に強い特性を生かし、夏の暑さ対策に「緑のカートン」としての利用も広がっています。

直売所にはこの品種!

おいしさ、作りやすさで選ぶなら

「島さんご」は果肉がためて歯ごたえのある食感が味わえます。果長20〜

25cmで胴張りがよく、果皮は極濃緑色で秀品率の高いことが特長です。

「白れいし」は珍しい白皮で、外観が美しい品種です。また、ニガウリ特有の苦みが少ないので、敬遠していた方でも安心して食べることが出来ます。

果長20〜25cm程度によくそろいます。これら2品種ともに晩生種なので、収穫始めは遅いですが、茎葉が茂ってくれば安定して雌花が着生し、着果もしやすくなります。生育は旺盛でつるもちもよいので、長期間にわたり栽培しやすく、「緑のカートン」としても最適です。

直売所出荷で差別化を図る栽培ポイント

品種特性を生かし、質のよい果実を長期間安定して収穫するための栽培ポイントについて解説いたします。

育苗〜定植期の温度管理

ニガウリは高温性の作物です。低温には弱いので、極端な早まきは禁物です。

播種期は、畑に定植するころの最低気温を15℃以上確保できる時期から30日程度逆算して決定します。発芽に必要な地温は25〜30℃です。

排水のよい畑を選び元肥主体で

圃場は排水のよい場所を選びます。特に、雨のたびに水がたまるようでは根が傷み、生育不良を起こすのでこうした場所は避けます。土壌水分を安定させ、地温を確保するためにも「黒マルチ」を張っておくとよいでしょう。

栽培期間が長いので、元肥は肥効が緩やかな緩効性肥料を主体とします。目安として、10㎡当たり成分量で、チン150g、リン酸200g、カリ150gくらいを基準に施します。

つるの仕立て方

ニガウリは果実が地面に接すると傷むので、「キュウリネット」などを利用した立体栽培が適しています。株間は80cmから広めに1mくらいが適当で、親づるを本葉10枚くらいで摘芯し、子づるを5〜8本伸ばして誘引します。その後出てくる孫枝は原則として放任とし、込みあう部分のみ整枝や摘葉を行います。



→生育途中の「島さんご」。キュウリネットなどを使った立体栽培が一般的。

交配・着果

ニガウリは、自然のミツバチ訪花または人工受粉が必要です。人工受粉は朝の早いうちに、雌花の柱頭にたっぷりと花粉をつけ着果させます。



↑夏の節電対策として有効な「緑のカートン」作りに最適なニガウリ。栄養価も高く注目の野菜。



暑さに強くて 栽培容易な 短太ニガウリ！

しま 島さんご

フリーダー
おすすめ



- 果皮は濃緑色で果長は20～25cm程度、秀品率が高くよくそろう。
- 肉厚で歯ごたえのあるかための肉質。
- 生育旺盛で日よけ用に「緑のカーテン」としてもおすすめ。

島さんご

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
冷涼地											
中間地											
暖地											

→苦み控えめで白色の果皮が珍しい「白れいし」は、直売所出荷のバリエーションとしても魅力。



果
菜

ウ
リ
類

ニガウリの栽培適期表

※播種期の決定は、圃場に定植する時期の最低気温が15℃以上確保できる時期から逆算します。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
冷涼地											
中間地											
暖地											

●播種 ---育苗期 ×定植 —生育期 ■収穫期

私の菜園

食べきりサイズで育てやすい「太れいし」

家庭菜園向きの品種として「太れいし」をおすすめします。果実は小さく、長さが15cm程度の食べきりサイズです。また、葉は小さくコンパクトな草姿をしていますが、枝発生は安定していますので、スペースに限りがあるベランダでも栽培しやすく、調理面でも栽培面でも扱いやすい品種としておすすめです。



↑「太れいし」は実も草姿もコンパクト。

栽培Q&A

〈催芽処理〉

タネの先端をハサミなどで少しカットする。



ぬるま湯に一晩浸しておく。

A ニガウリのタネの殻は非常にかたいので、種子の先端部分のへそをハサミでカットし、一晩水につけておくと発芽しやすくなります。また、土の温度を25～30℃に保てば3～4日で発芽してきます。

Q 発芽をそろえるコツはありますか？

←ハサミやつめ切りなどで、タネの先端を傷つける。



→傷のついたタネ。これを一晩水に漬けておくとよい。

栽培Q&A

Q 果実が小さいうちに黄色くなるのですが、あるのですが。

A ニガウリは高温や乾燥に非常に強い作物ですが、昨年のように高温・乾燥が続き、萎れがひどくなると人工受粉をしても着果が悪くなり、小さいうちに黄化してしまいます。枝や葉が茂り、気温が30℃を超える7月からは萎れに注意し、土の表面が乾いていれば朝のうちにたっぷりと灌水するように心がけます。

収穫適期の判断

収穫適期は「島さんご」「白れいし」で果長20～25cmになったころです。適期を過ぎると果実が黄色く変色し、商品価値が低下しますので注意が必要です。



↑収穫適期を過ぎたニガウリ。果実が黄色く変色し商品価値が下がってしまう。



おいしさ、作りやすさ、収量で選ぶ
おすすめ品種

スイートコーン

スイートコーン
耕種基準

畝幅 (cm)	150
条数 (条)	2
株間 (cm)	30

※表示の耕種基準は
目安としてご利用
ください。

旬の野菜は、栽培しやすい時期に作られて店先に並ぶため、季節的に一番おいしく、健康により成分が豊富です。最近少なくなつた旬の野菜ですが、夏の日差しをいっぱい浴びて育つたスイートコーンは、直売所での夏野菜の代表格といえます。

直売所で選ぶならこの品種！

おいしさで選ぶなら…

「おひさまコーン88」は播種から88日で収穫できる中生黄色種で、高糖度とやわらかさを兼ね備えた大きな穂が収穫できます。また、草勢が旺盛なので栽培が難しい抑制栽培にも利用できるのが特長です。

作りやすさで選ぶなら…

「ランチャー82」は栽培が容易で、安定してポリウムのある大きな穂が収穫できる82日の極早生黄色種です。収穫適期に幅があり、しなびに強いいため、

店先での商品性を長く保つことができ
ます。

収量で選ぶなら…

「カクテル84EX」は、播種後84日で収穫できるバイカラーの中早生品種です。草勢が強く環境適応性にすぐれ、外葉が濃緑でポリウムのある穂が安定して収穫できます。



→やわらかく糖度が高い「おひさまコーン88」。

直売所出荷で差別化を図る
栽培ポイント

土づくりをしつかりと

堆肥など有機質を多めに施して深耕します。肥料の効きが作を大きく左右しますので、元肥はチッソ、リン酸、カリの成分量で、10㎡当たりそれぞれ200〜250gと多めに施します。

**地温を確保して
発芽をそろえる**

発芽をそろえることは、計画的な収穫、出荷のために大変重要な要因となります。播種時には地温を14℃以上確保してください。14℃を下回る作型では、マルチやトンネルで地温を確保します。



↑地温確保のためにはマルチ栽培がおすすめ。播種は1穴当たり3〜5粒が目安。

畝幅は150〜160cm程度で、1畝2条まき、株間30〜33cm、10㎡当たり40〜45株程度の栽植数が適当です。1穴3〜5粒直播し、本葉が3〜4枚出たところ間引きします。間引き後は土寄せをして、株元を軽く押さえておきます。



→本葉3〜4枚のころに間引き。

効果的な追肥で良穂を収穫

追肥はよい穂を収穫するために大変重要で、本葉6〜7枚ごろに第1回目の追肥を、雄穂出穂時に第2回目の追肥を行います。生育の早い極早生品種の「ランチャー82」の場合は、通常品種よりも数日早めの追肥を行います。チッソ成分量で10㎡当たり速効性肥料を50g施します。草勢が弱い時は速効性の液肥や葉面散布も効果的です。



栽培Q&A

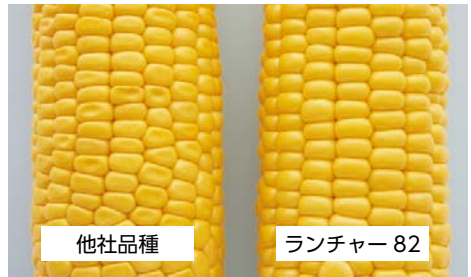
Q 「ランチャー82」で大きな穂を収穫するには？

A 「ランチャー82」は、樹ががっしりとしてコンパクトで葉枚数が少ないため、倒伏に強く管理のしやすい草姿をしています。
反面、小さな草姿で穂を大きく太らせるため、元肥が少ない場合や追肥が遅れると、穂の肥大不足や糖度が上がらないことがあります。多めの元肥、早めの追肥と十分な水管理で初期から草勢を維持してください。少ない葉を最大限に活用して穂に栄養を送ることがポイントです。

私の食卓

焼きもろこしや粒コーンに！
「ランチャー82」

スイートコーンのおいしい食べ方の一つとして、焼きトウモロコシがあります。最近の生でも食べられるサラダコーンは、皮がやわらかく焼きトウモロコシにするには難しい品種になっています。「ランチャー82」は生でも食べられますが、皮に適度な厚みがあるため、網に焦げ付きにくく、焼きトウモロコシにも向く品種です。また、粒が大きくて深いので、包丁でそぎ落としてスープやサラダに添えるなど、いろいろな料理に活用できます。



他社品種

ランチャー82



他社品種

ランチャー82

→「ランチャー82」は粒が大きく深いので、粒コーンとしても利用しやすい。

出荷のヒント

各品種使い分けて、長期出荷を目指す！

夏の野菜を先取りして、早い時期から店先にスイートコーンを並べるなら、早まき特性にすぐれた「ランチャー82」が最適です。収穫適期に幅があり、店もちがよいので、温度が急上昇する初夏の収穫で特に能力を発揮します。

気温と日差しが十分になる5月の連休以降の播種から「おひさまコーン88」にリレーして、穂の大きさと品質で品ぞろえを広げましょう。品薄な10月収穫に向けた抑制栽培での出荷にも適します。

また、バイカラーの「カクテル84EX」を栽培して黄色品種と一緒に並べると、売場が賑やかになり一層人目を引くでしょう。



↑バイカラーコーンと、黄色のコーンを一緒に販売するのもおもしろい。

水分不足を防ぐ

水分不足は糖度不足、先端不稔、穂の肥大不足につながります。1回目の追肥時期以降は生育が旺盛になりますので乾燥に注意し、特に開花後の受粉期は十分な灌水を心掛けてください。

害虫防除

アワノメイガに対しては雄穂の出穂期から雌穂の出穂期に粒剤農薬を散布したり、捕殺したりして早めに防除してください。



↑2回目の追肥は雄穂が見え始めたころに行う。



↑1回目の追肥は本葉6〜7枚時。

試しむきをして適期収穫

絹糸抽出日から21〜25日ごろが収穫適期です。試しむきをして、先端の粒が十分肥大し粒の色がまわっていれば収穫適期です。



→雌花の絹糸。



→穂先まで、十分実が詰まっていることを確認して収穫。



おいしさ、作りやすさ、 収量で選ぶ おすすめ品種 エダマメ

昨今、消費者の食に対する志向の細分化や栽培の拡大に合わせて、多くのエダマメ品種が流通しています。直売所出荷の際には、多彩な品種群の中から、栽培環境や出荷形態、地域の消費者の嗜好に合致した品種を選ぶことがポイントとなります。

直売所にはこの品種！

おいしさで選ぶなら…

「快豆黒頭巾」は一般の品種と違い、正月の黒マメとして使う黒ダイズ由来の「黒エダマメ」に属している品種です。

黒マメ特有のコクと強い甘みから生じる食味のよさと、粒の表皮が薄く家庭料理で応用しやすいというのが特長です。

通常、黒エダマメは秋以降の出荷なのに対し、中早生種の「快豆黒頭巾」は、エダマメの需要が最も多い夏場に食味のよい黒エダマメを出荷できるといった利点があります。



↑数多くあるエダマメ品種の中から、消費者の需要や栽培のしやすさなどを考えて選ぶことが重要。

エダマメ耕種基準

畝幅(cm)	60
条数(条)	1
株間(cm)	25

※表示の耕種基準は目安としてご利用ください。

作りやすさで選ぶなら…

エダマメは播種期に応じて品種が分されていますが、「富貴」の播種適期は中間地で3月下旬〜6月中旬と長く、播種日設定に幅をもたせることができます。また、草勢が強く耐暑性ももつため、栽培が容易であるほか、消費者に人気の3粒莢が多数収穫できるといった特長もあります。

収量で選ぶなら…

新品种の「江戸緑」は大莢の早生で注目の品種です。

中生種の「福獅子」は、旺盛な草勢が特長で着莢力にすぐれています。春先の早まきには適さないものの、中間地の5月上旬〜6月中旬播種では、高温期でも莢付きがよいという特性を發揮して、かなりの数の莢を収穫することができます。

直売所出荷で差別化を図る 栽培ポイント

秀品を多く収穫する最大のポイントは、生育ステージに応じた肥培灌水管理を確実にを行うことです。



↑マメ類の根には根粒菌がある。根粒菌の働きを最大限に生かすため、元肥はチッソを控えめに施す。

元肥は少なめで

生育初期のチッソ過多による「木ボケ」を防止するため、元肥は少なめに施し、その代わりに、土壌中に生息する根粒菌の働きを最大限に引き出すことでチッソ成分の供給をまかなうような土づくりが必要です。

土質や残肥の状況にもよりますが、元肥は目安で10㎡当たりチッソ成分で500g程度とします。しかし、草勢が少しおとなしい「快豆黒頭巾」では、他品種より元肥を2〜3割多く施し、

初期からの旺盛な生育を促すことで多収につながります。また、土壌酸度はpH6前後に調整すると、根粒菌の働きが最も活発になります。

生育期の肥培・灌水管理

エダマメは乾燥を嫌うので、適度な灌水によって乾燥を防止することで上作につながります。開花期前までの灌水は、分枝や節数を増やすのに効果があり、それによって花数が増加します。十分な灌水を行っても分枝や節数が増えない場合は、肥効が悪くなっている可能性があるため、10㎡当たり100〜200g程度を目安に追肥を行うとよいでしょう。

開花着莢期の肥培・灌水管理

この時期の乾燥は落花や落莢を招き、着莢率と秀品率が低下するため適度な灌水は欠かせません。また、莢肥大に移行する時期には、より多くの養分が必要になります。特に「快豆黒頭巾」や「福獅子」など莢付きのよい品種は、この時期の養分が不足すると小莢になりやすいため、この時期に追肥や葉面散布を施し、葉の同化能力を高めて莢肥大を促してやるのが、大莢の秀品を多く収穫するポイントとなります。



甘み際立つ食味のよい
黒エダマメ！

薄茶毛 熟期 80日

リーダー
おすすめ

かいとうくろまきん
快豆黒頭巾 PVP

快豆黒頭巾

栽培型	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ハウス									
トンネル									
露地(暖地)									
露地(中間地)									
露地(冷涼地)									

- 黒マメ特有の風味が際立ち、食味がすぐれる。
- タネまき後80日程度で収穫ができる中早生タイプ。
- 一般の早生エダマメに似た栽培特性で、草丈も低いので作りやすく家庭菜園に向く。



大莢で多収の中生種！

白毛 熟期 85日

ふくじし
福獅子

福獅子

栽培型	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
トンネル								
露地(暖地)								
露地(中間地)								
露地(冷涼地)								

- 収量性の高い、白花で白毛の中生種。
- 大莢で3粒莢率が高く、莢色は鮮緑色が美しい。
- 高温期にも着莢性が安定するので遅まきにも適する。

私の菜園

家庭栽培で茶マメの風味を存分に味わおう！「福成」



←茶豆「福成」の、収穫直後の新鮮な風味を味わうことができるのは家庭菜園ならではの。



エダマメは、収穫後急速に鮮度や食味が低下してしまう野菜ですが、家庭菜園で栽培することで、本来の新鮮な味を楽しむことができます。特に、風味のよさが特長の「茶エダマメ」に属する「福成」は、収穫直後なら特有の風味がひときわ増すため、家庭菜園におすすめです。



↑開花期のエダマメ。開花や着莢・莢肥大を促すため灌水や追肥を適切に行う。

栽培Q&A

資材の活用

防虫ネットを使って虫害を防ぐ

エダマメは特に夏場、ガの幼虫やフタスジヒメハムシ、カメムシ類などの害虫による食害を受けやすいため、これを防ぐことが必要です。「サンサンネット」などを使って敵にトンネルを張り、害虫の侵入を防ぐなど、耕種的な防除が効果的です。また、農薬の使用回数を減らすこともできることから、減農薬栽培にもつながります。

Q エダマメの収穫適期はどのように判断すればよいですか？

A エダマメは、開花後30〜40日のころに子実の糖含量が最大となり、うまみ成分であるグルタミン酸の含量も多くなって最もおいしい収穫適期を迎えますが、この期間は3〜5日間と短いので、しっかりねらって収穫しましょう。収穫の目安は、普通エダマメは莢の大部分が肥大し、莢色が鮮緑で未熟莢がわずかに残るころ、茶エダマメや黒エダマメはマメに赤い斑の着色が始まるころです。

→収穫適期近の「快豆黒頭巾」。黒マメは、莢の表面に赤い斑が出てくるころが収穫適期。





おいしさ、作りやすさ、
収量で選ぶおすすめ品種

インゲン (つるなし種)

インゲン耕種基準

畝幅 (cm)	200(つる有)
	120(つる無)
条数 (条)	2
株間 (cm)	45(つる有)
	35(つる無)

※表示の耕種基準は
目安としてご利用
ください。

この度は、栽培容易で直売所出荷に
ぴったりな「つるなしインゲン」をご
紹介します。インゲンの中でも、特
つるなし品種は、煩雑な管理作業が不
要なほか、適期栽培では播種後55〜65
日という短期間での収穫が可能です。

この特長を生かし、圃場の空きスぺー
スなどをうまく利用してインゲンを栽
培し、直売所出荷の一品目として組み
込んでみてはいかがでしょうか。



↑手間がかからず小スペースで栽培
できる「つるなしインゲン」。

直売所にはこの品種！

おいしさで選ぶなら…

「さつきみどり2号」はやや子実の凹
凸が目立つ莢の、どじょうタイプに属

する、つるなし品種です。莢が肉厚で
やわらかく、甘みも豊かで食味が非常
にすぐれているのが特長です。また、
一般の丸莢インゲンに比べて莢の太さ
や長さもあり、収量性にも富みます。



↑肉厚でやわらかく甘み豊かな
「さつきみどり2号」。

作りやすさで選ぶなら…

「さやっこ」は丸莢で子実の目立ちが
少ないスムーズな形状が特徴で、関西
タイプに属するつるなし品種です。集
中着莢型の珍しい品種で、一斉収穫が
可能であるほか、莢のそろいがよいた
め、収穫や調製作業の手間が大幅に減
少します。また、株ごと店頭に並べて
鮮度をアピールするなど、出荷形態の
幅を広げることもできます。

直売所出荷で差別化を図る
栽培ポイント

つるなしインゲンは管理作業に手間
がかからない作物ですが、要所を押さ
えて管理の手を少し加えてやるだけで、
収量をぐっと上げることができます。



→密植にならないよう植え付ける。適湿・適温
を保つためマルチの使用がおすすめ。

収量を上げるための圃場選び

つるなしインゲンの収量を上げるた
めには、発芽を順調にさせることと、
生育初期からしっかりと根を張らせる
ことが必要です。これらを促すため
には、圃場づくりが重要なポイントとな
ります。インゲンは、通気性の高い土
壤ほど根張りがよくなるため、有機質
を十分に施しましょう。また、圃場選
びも重要です。耐湿性が弱いため、排
水のよい圃場を選ぶとともに、連作障
害を出さないよう、少なくとも3〜4

年インゲンを栽培していない圃場を選
びましょう。

密植を避ける

過度な密植は日光不足による落花や
莢色の悪化の原因となり、減収につな
がります。畝幅1・2〜1・5m、株
間25〜35cmで2条植え程度とし、株全
体に光が当たるようにします。

発芽、生育初期は
適湿・適温を保つ

インゲンの発芽最適地温は、20〜25
℃が目安です。地温が13℃以下や30℃
以上になると、発芽率が著しく低下し
てしまうため、このような場合はマル
チ資材などを用いて適温保持に努める
ことが重要です。また、この時期は根
傷みの原因となる水分過多は避けなけ
ればいけません。逆に土壌が乾燥し
すぎると、順調な生育が妨げられるた
め、土壌水分保持という意味でも、マ
ルチの使用をおすすめします。

開花着莢期には灌水を多めに

開花着莢時期は、水分が不足すると
莢の曲がりや短莢の原因となるため、
多めの灌水で適湿を保つことが多収の
ポイントです。



プリーダー
おすすぬ

極濃緑色の つるなしインゲン！

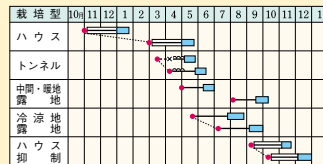
収量で選ぶなら…

関西タイプに属する、つるなし品種の「恋みどり」は、旺盛な草姿で馬力が強く、着莢力もあることから、こまめな収穫によって比較的長い期間の出荷が可能で、収量が上がります。また、莢色が従来の品種にはない極めて濃い緑色をしているため、店頭に並べた時に見栄えがよく、消費者の目を惹きつけます。

果
菜

イン
ゲン

恋みどり



- 莢色は極濃緑色で、莢表面の子実の目立ちも少なく、秀品率の高いつるなし種。
- 丸莢でスジなし、長さは14cm程度でそろいがよい。
- 熟期は早生で54日タイプ。

プリーダース・アイ

段まきで長期出荷を目指す

今回ご紹介したつるなし品種は、つるあり品種に比べて栽培期間が短く、煩雑なネット誘引も不要なため、栽培に手間がかかりません。しかし、株が小さいため収穫期間が短く、長期間の出荷には不適という欠点もあります。これを解決するためには、「段まき栽培」がおすすめです。1～2週間おきに播種することで、つるなし種でも計画的な長期間出荷が可能になります。

栽培Q&A

Q 収穫はどのくらいの頻度で行えばよいですか？

A 集中着莢型の「さやっこ」は、一斉収穫を行います。「さつきみどり2号」や「恋みどり」は、一斉収穫も可能ですが、1週間に2回程度、数回に分けて収穫することで収量が上がります。収穫時にくず莢も取り除き、株に余分な負担をかけないようにするとより多収を望めます。



→ 「恋みどり」は1週間に2回ほどの頻度で収穫するとよい。



→ 短期集中の収穫に向いている「さやっこ」。

資材の活用

ネットを利用して 株の倒伏防止対策を

つるなしインゲンは、ネットによる誘引は不要ですが、特に着莢期以降、風雨や莢の重みによって株が傾いたり、倒伏したりすることがあります。倒伏によって莢が地面に触れてしまうと、莢の曲がりや病害が起こりやすくなり、収量の減少を招いてしまうため、フラワーネットや誘引ひもなどの資材を使って、株を支えるようにするとよいでしょう。

→ 開花が始まったインゲン。品質のよい実を収穫するため、適切な灌水管理を。





おいしさ作りやすさで選ぶ
おすすめ品種

レタス (非結球タイプ)

レタス(育苗)
耕種基準

畝幅(cm)	45~180
条数(条)	1~4
株間(cm)	27~35

リーフレタス(育苗)
耕種基準

畝幅(cm)	45~180
条数(条)	1~4
株間(cm)	25~32

※表示の耕種基準は
目安としてご利用
ください。

直売所にはこの品種!

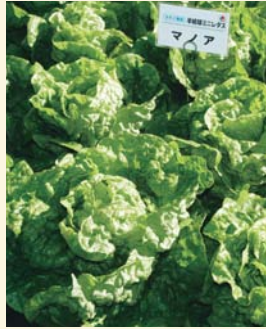
おいしさで選ぶなら...

レタスは、結球レタスだけでなくリーフレタス・ロメインレタス・サラダなどの非結球レタスの種類も多く、形や食味の変化に富んでいます。結球レタスに比べると栽培容易で、取り組みやすい品目です。地元のレストランが直売所で買いつけたり、契約出荷する農園もあります。

結球レタス以外にもリーフや半結球、ミニタイプなど魅力的な品種がたくさん! ぜひ直売出荷のバラエティに。



真っすぐ立ち上がる
ステムレタス



半結球レタス「マノア」



リーフレタス「マザーレッド」
「マザーグリーン」



↑コスレタス

「マノア」は、外見は結球レタスとサラダ菜の中間の半結球タイプです。条間・株間ともに15cm程度の密植が可能で極早生種なので、小面積でも短期間で多くの玉を収穫することができます。また、ジューシーで歯切れがよく食味も良好です。
「コスレタス」は海外では盛んに栽培されているタイプで、ハクサイのように縦長に緩く結球します。主にシーザーサラダに利用され、肉厚でシャキシャキ感が強く、味の濃いレタスです。炒め物にも向き、従来とは違う食味と食感を提案できる品種です。

直売所出荷で差別化を図る
ための栽培ポイント

レタス類はほかの葉菜類に比べると、温度・施肥量・土壌水分などの外部環境に敏感な品目で、それらが急激に変化しない環境づくりが重要になります。春から夏にかけての気温が高く降水量の多い時期は、特に次のような点に注意して栽培してください。

発芽までは涼しく管理

レタスの発芽適温は20℃前後です。25℃以上では休眠による発芽不良になることがあります。播種後、数本が発芽するまでは、直射日光の当たらない風通しのよい涼しい場所に置いてください。特に、ハウスの中は春先でも気温が上がりますので、注意します。

元肥は速効性肥料を
適切に与える

土壌の肥沃度によって適宜調整が必要ですが、一般的にチッソ成分で10m当たり、4~6月どりは150g、7月どりは120g、8~9月どりは100gを目安にし、速効性の肥料を元肥で施します。

肥料が多すぎると、軟腐病などの病害やチップバーンの発生、形状の乱れなどにつながりますので注意してください。

マルチ利用がおすすめ

マルチで畝を被覆することで、土壌の極端な乾燥や降雨後の過湿を防ぐことができ、レタスが順調に生育しやすくなります。

雑草の抑制や土の跳ね返りによる病害の発生を防止する効果もあり、マルチを利用した栽培は安定的なレタス栽培にとって不可欠です。

マルチの色は作型によって使い分けることが必要です。春先の気温の低い時期は黒マルチで地温を確保し、気温の高い時期は白マルチで地温上昇を抑制します。概ね、4月下旬以降に定植するものは白マルチを使用します。



↑レタスの発芽適温は20℃前後。直射日光の当たらない涼しい場所で管理する。

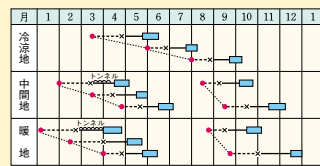


歯切れと食味のよい 半結球ミニレタス！

フリーター
おすすめ

タキイ育成 **マノア**

マノア



- ミニの超極早生半結球レタス。
- 肉質はやわらかで歯切れがよく、食味良好。
- 密植に適し作りやすい。

栽培Q&A

Q リーフレタスの
チップバーン
発生を抑える
ポイントは？

A 葉先が茶色く変色・壊死するチップバーンは生理障害の一種で商品価値を低下させます。気温が高く生育旺盛な時期に土壌の乾湿を繰り返すと、発生が多くなります。適切な施肥量、マルチ栽培で土を適湿に保つ、干ばつ時には早めに灌水する、過熱になる前に収穫する、などの対策が重要です。

私の食卓

食感と甘みの引きたつレタスの「お浸し」

生のままサラダとして利用されることの多いレタス類ですが、加熱調理でもおいしくいただけます。サッとゆでて「お浸し」にするのが私のお気に入りです。ほどよくレタスのシャキシャキ感が残り、甘みが際立ちます。結球レタスから非結球レタスまで、種類を問わずおすすめの調理法です。

作りやすさで選ぶなら…

「グリーンジャケット」は、適温期〜高温期の栽培に適し、耐暑性・晩抽性にするぐれる濃緑のグリーンリーフです。気温が高く降水量が多い天候下の栽培でも、形状の乱れやチップバーンの発生が少なく栽培しやすい品種です。

「サマルージュ」は、梅雨期の曇天や長雨でも鮮やかな赤色に発色するレッドリーフです。耐暑性・晩抽性にすぐれ、適温期〜高温期の栽培に適しています。

栽培Q&A

Q リーフレタスの
発色をよくする
には？

A 気温が高く降水量が多い環境では、リーフレタスの緑や赤の色が薄くなり、見栄えが悪くなります。

日当たりのよい場所で栽培することが、発色をよくするポイントです。

品種選びも重要です。「グリーンジャケット」「サマルージュ」は、高温期においても緑や赤の発色が安定し、品質のよいリーフレタスを生産できます。



↑高温期でも発色のよい「サマルージュ」。(写真右：「サマルージュ」左：従来種)

↓4月下旬以降の高温期の作型では白マルチを使用するとよい。



↑春先の低温期の作型では黒マルチを使用。



安定した需要で直売所に欠かせない仏花の代表格！

けいとう

直売所にはこの品種！

けいとうは高温・多湿な日本の夏でも栽培が容易で、お盆やお彼岸用の仏花として、なくてはならない存在です。切り花単価は決して高くありませんが、「安定した需要がある」「作りやすく、露地での省力的な栽培が可能」「種苗費が比較的安く抑えられる」「花もちがよく、他の花に比べて採花適期に幅

があり、出荷日を調整しやすい」といった特長は、直売所出荷にぴったりで、ぜひ定番の出荷計画に組み込んでいただきたいアイテムです。

けいとうには花型などによるいくつかのタイプがありますが、切り花として最も多く用いられるのは、トサカ系（クリスタータ種）といわれるグループで、花穂の形が雄鶏の「とさか」を思わせる独特の玉状ないし扇状になります。色目としては赤色の人気が最も高く定番となっているほか、黄色や桃色、緑色、2色咲きなど花色のバリエーションも豊富で、仏花としてはもちろん、洋花とのアレンジメント用にも

よく使われます。良品の目安は、茎の直径が鉛筆程度の細さのもので、花の大きさはゴルフボールから卵大程度が使いやすいサイズになります。

仏花におすすめの「久留米」系！

トサカ系の代表格といえるのが「久留米」系で、しまりのよい玉状の花型と鮮やかな花色が特長です。定番の赤系品種の中には、花だけでなく茎葉も赤みがる赤茎系と、茎葉が緑色の青茎系とがあります。市場流通量が多いのは赤茎系ですが、両方を作付けすれば赤系の中でも色調のバリエーションをもたせることができます。

「久留米紅貴」は最も定番色で、深みのある濃赤色をしており安定した需要が見込めます。赤茎系のためシックな印象があり、花穂はよくまとまります。「久留米緋紅色2号」は明るい緋紅色で、咲き始めはややオレンジがかりますが、花穂はよくしまり、形状のそろい性にすぐれます。「久留米紅貴」よりやや開花期が遅いので、同じ播種期で赤系の出荷時期に幅を出すことも可能

直売所出荷で差別化を図る栽培ポイント

直播栽培と移植栽培

直播栽培

けいとうは本来移植を嫌うので、直播栽培なら活着不良の心配もなく定植作業の手間も省けます。ただし、発芽適温が25℃前後と高めなので、早まきは避け、露地栽培では八重桜の開花時期以降に設定しましょう。播種は条間15cm程度で3〜4条の条まきとし、覆土は薄めにします。本葉が出そろったら5〜10cm間隔に間引きします。種子量は10m²当たり4m²程度が標準です。

移植栽培

直播栽培よりも手間がかかりますが、株がそろい出荷率は高くなります。特に、7月のお盆をねらった早出し出荷や水はけの悪い土壌などでは、移植栽培の方がよいでしょう。200〜288穴のセルトレイを用いて清潔な用土で育苗します。播種から3〜4週間後の本葉3〜4枚ころが定植適期です。老化苗での定植は活着不良や短小開花を招くので注意してください。定植間隔は株間10cm×条間10cmの6〜8条植え程度にします。

肥料は控えめに

チッソ成分が多いと花穂や葉が大きくなりすぎ、茎も太く軟弱になります。また、茎が帯状に変形したりすることがあるので、施肥は極力控え、かたくしまった茎になるよう栽培します。元肥は10m²当たり成分量でチッソ、リン酸を各100g、カリ300g程度とするのが標準的ですが、圃場が肥沃な場合や前作の残肥がある場合は減量するか無肥料にします。葉色が青あおとしているよりはやや薄めの葉色を維持するようにすると、細くかたい茎になつて品質がよくなります。出荷時期に少々下葉が黄ばむくらいがちょうどよいでしょう。

栽培管理と採花

倒伏や茎曲がり防止のために、フラワーマットは定植後早めに張り、生育にしたがい引き上げるようにしましょう。花が見えてきてもすぐには採花せず、十分ポール状に巻いてきてから切るようにします。ただし、採花が遅れすぎるとタネがついて花の下部が毛羽立ち、品質が低下してしまうので気をつけてください。





けいとう「久留米」系のラインアップ



赤茎久留米紅責



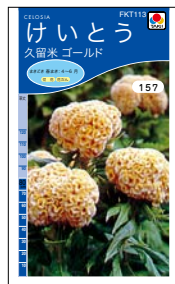
久留米緋紅色



久留米混合



久留米コロナ



久留米ゴールド



久留米ローズ



↑「久留米」系は花穂が玉状や扇状になるのが特長。花色もバリエーションが豊富なので直売所出荷にうってつけ。

です。「久留米ゴールド」は赤系品種と対になる明るい濃黄色品種です。季節感にマッチする初秋の出荷が特におすすめです。「久留米ローズ」はやや紫味を帯びた濃い桃色で、花型が非常によく、赤色品種よりも明るい印象を与えます。「久留米コロナ」はユニークな濃黄色と緋赤色の咲き分け品種です。ポップな花色で洋花とのアレンジにもおもしろく、直売コーナーのアクセントになるでしょう。

出荷のヒント

「畑が肥沃で茎が太り過ぎてしまう」という方にはピンチ栽培がおすすです。定植間隔を広げ（株間20cm×条間15cm程度の2条植え）、草丈15cm程度の時に頂芽をピンチし、4～5本仕立てとすることで肥料分が多めでも手ごろな大きさの切り花を得ることが可能です。ノーピンチに比べて開花が半月ほど遅れ、枝ごとに生育差も出やすいので、出荷期に幅をもたせたい場合にも有効です。

→ 出荷期に幅をもたせたい場合などにも有効なピンチ栽培。草丈15cm程度の時に頂芽をピンチするのがポイント。



病害虫について

立枯病や疫病の発生に注意します。育苗期の過湿や圃場の連作は避け、排水のよい畑を選んで作付けしましょう。虫害ではヨトウムシやアブラムシの発生などがあるため、薬剤などで予防に努めます。



↑ 施肥は控え、細くかたい茎に仕上げて品質を上げる。フラワーネットは定植後早めに張る（写真は「久留米コロナ」）。

けいとうの作型図

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
早出しハウス		●	▲	×	—	■ (早生種)						
7月出荷ハウス育苗・露地定植			●	▲	×	—	■					
8月出荷露地直播				●	○	—	■					
9月出荷露地直播						●	○	—	■			

● 播種 ▲ 仮植 × 定植 ○ 間引き — 生育期 ■ 出荷期